

# 詳細な地域情報が可能なデータ放送 その良さはネットとテレビの融合性



島根県松江市でケーブルテレビ事業を展開する山陰ケーブルビジョン(株)(島根・松江市、石原恵行社長、愛称:マープル)が3月25日、これまで「マープル」「マープル情報チャンネル」で親しまれてきた自主放送2チャンネルの地デジ放送を開始した。そして、マープルは(株)メディアキャスト(東京・渋谷区、杉本孝浩社長)の「DataCaster suite(データキャスタースイート)」を採用し、デジタル放送と同時期からデータ放送も開始。ここでは、データ放送を開始した背景、現状と今後の展開を常務取締役の錦織修二氏に伺った。

## 地デジ放送への完全移行 どう展開するかが大きな課題

2006年10月1日、松江市で地上デジタル放送が開始された。2011年7月24日のアナログ停波に向けたアプローチの幕が切って落とされたのである。島根県では、開始時点で、2011年7月24日までは、約4年半しかない。

対象世帯数約7万世帯のうち、約6割の世帯が接続されているマープルにとっても、アナログからデジタルへの移行をどう進めるかは大きな課題である。

「『国の方針で、テレビがアナログからデジタルになるのです』と説明すれば、理解していただけるお客様は多いと思います。しかし、それだけでは、開局以来20数年、地元のケーブルテレビ局として育てていただいた我が社にとっては、何とも物足りないのです。『デジタルになることのメリットをお客様に目にみえる形にして提供できるかどうか、アナログからデジタルへの移行をスムーズに展開できるかどうかのカギになる』と思いました。そのカギは、やはり前から考えていたデータ放送だろうと。データ放送ならば、地元のきめ細かな情報を提供することができる。06年7月の豪雨による洪水で、防災情報や行政情報を住民に知らせること、住民がその情報を入手できることの重要性を行政始め、市民全員が体感していましたので、やはり、これで行こうと動き始めました」と、錦織氏は語る。このように、マープルはアナログ放送時から、データ放送を見据えていた。そして、松江市民も行政も即座に入手できる情報提供の大切さを認識してい

た。たとえ、お互いが情報提供の重要性を認識していても、それだけでは強固な協力体制を築くことはできない。錦織氏は「我々が何度も何度も足を運び、汗をかき情報収集してこそ、行政から信頼を得ることができるもの。それで初めて真の関係が構築できる」と説明する。実際、マープルは松江市防災安全課と幾度となく、災害時の緊急情報提供構築に向けての話し合いを持ったという。

しかも、デジタル化への取り組みの当初は、お客様のテレビの視聴環境は“アナログ100%”である。それを“デジタル100%”へ持っていく。その過渡期においては、アナログの視聴環境にある世帯への情報提供も考慮しなければならない。その過渡期の手段として、07年4月から「マープル」でL字放送を行い、さまざまな情報の提供を1時間のリピート編成で開始。それと同時に、市の担当者には、「来年の春には、市民のみなさんがいつでも情報を入手できるデータ放送を始めます」とアナウンスし、さらなる行政側からの情報提供の重要性への理解促進、そして協力関係の強化を進めていく。そして、08年3月25日、マープルの地デジ放送開始とともに、データ放送のサービスも始まった。

## おくやみからゴミ収集情報まで 手軽に情報を入手できる

データ放送の第1階層のトップ画面には、「松江市からのお知らせ」「公民館からのお知らせ」「警察からのお知らせ」「暮らしの情報」「マープルだより」のアイコンがある。右下の

空きスペースには、市議会の開催期間中「議会情報」が入る予定だ。

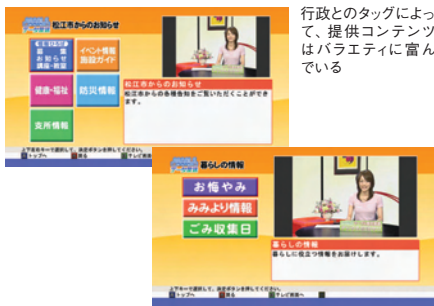
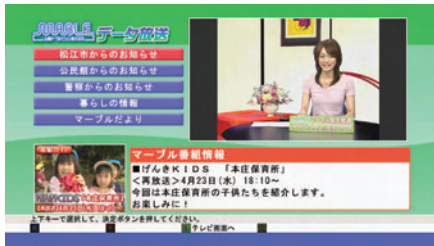
第2階層では、「松江市からのお知らせ」には、「情報ひろば(募集/お知らせ/講座/教室)」「イベント情報/施設ガイド」「健康・福祉」「防災情報」「支所情報」のアイコンがあり、ここでボタンを押すと、第3階層の情報が入手できる。同じく第2階層の「公民館のお知らせ」には、松東ブロック、松北ブロック、中央ブロック、松南ブロック、湖南ブロックのアイコンがあり、第3階層に入ると、それぞれのブロックの公民館名が表示され、そこでボタンを押すと、それぞれの公民館の情報がわかる。また、「警察からのお知らせ」は、島根県警からのお知らせが表示され、「暮らしの情報」では、「お悔やみ」「みみより情報」「ごみ収集日」のアイコンが表示されている。

松江市は、地元の絆が強い地域であり、お悔やみ情報は、「キラーコンテンツ」という側面を持っている。市から提供される情報をすぐに掲載することができ、また一定期間掲載しておくことができるので、仕事や旅行など、留守中の情報も入手できる。

「みみより情報」は、市民が開く各種イベントなどの案内情報などが掲載されている。なかでも、「ごみ収集日」の情報も貴重な情報である。環境問題がクローズアップされる今日、「ごみ収集日」情報は、全国共通のキラーコンテンツのひとつといつてよいであろう。

「マープルだより」は、コミュニティ放送の番組内容を紹介したり、メンテナンスや工事などの情報を提供する。また、地元有識者の「コラム」も掲載されており、このコーナーでは、市民の川柳や小学生の作文なども掲載してい

く計画だ。地元の生活情報を入手でき、市民の誰もが気軽に参加できるコーナーを設けることで、まず新しく始まったデータ放送に馴染んでもらおうという狙いがある。



行政とのタグによって、提供コンテンツはバラエティに富んでいる

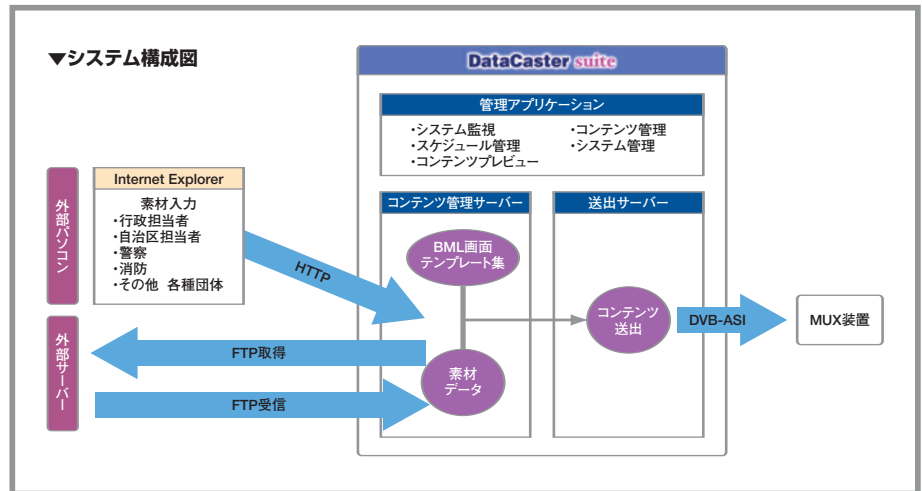
## 技術的ハードルが低く 遠隔地からのデータ更新が 容易なDataCaster suite

マールでは、データ放送のシステムとして、業界スタンダードとも言えるメディアキャストの「DataCaster suite」を選定した。錦織氏は、選定のポイントは大きく2つと語る。

一つ目は、「データ放送を始めるにあたり、最初から地上デジタル放送局が使うような大規模なシステムにしてしまうと、サービスの内容を充実させる前に、システムに振り回されてしまうので、ハードルの高さを感じないシステム」を選定の基準とした。実際、使用されているサーバーは2ユニット分だけという非常にコンパクトなもので、運用も軽く、現在2名でアナログ情報チャンネルを兼務しながら行っている。それだけ「DataCaster suite」のデータ放送は、コンテンツ制作も簡単な証だろう。

番組制作課で、データ放送を担当している門脇正和氏は、「私は、BMLを知らなかったので、最初、大丈夫かなと少し不安もありましたが、取り組み始めると非常に便利なテンプレートがたくさんあるので、けっこう楽しく仕事を進めることができました」という。

そしてもうひとつがインターネットを経由して、外部からもデータ放送の更新が容易であるこ



とだ。松江市役所や公民館などの遠隔地からでもマールが提供するデータ放送の更新が通常の業務で使用しているInternet Explorerを使って担当職員自身が行える。外部更新が可能なことによって、天候に左右されやすいイベント情報や災害時における情報提供も、タイムリーに更新ができる。これは行政にとって、市民にとってとても大きなメリット。マールにとっても利便性も高く、多岐にわたった応用がきく機能だ。当然、外部接続となるとセキュリティ問題が浮上するが、そこはパスワードを担当者のみへの発行とし、パスワード変更をこまめに行うことで対応は可能だ。



番組制作課の門脇正和氏



昔だったら、僅に2ラックを必要としたデータ放送システムのサーバーだが、「DataCaster suite」なら、たった2ユニットでサーバーを提供可能

## ケーブルテレビの強みは 密度の濃い情報提供

松江市では、公立・私立の小中高や養護施設などは、総数で90数校になる。今後、マールでは市内の学校情報の提供も検討している。「5、6月頃から、教育委員会の担当者の方と話し合い、小中各1校くらいをモデ

ル校にして、まずトライアルを行なってみたい」という(錦織氏)。今年は、モデル校で実験を行い、その結果をもとに、来年度には、小中高などの教育施設などを対象に普及を図っていく方針のほか、マールでは、データ放送を活用し、将来、JAや地元商店街などの情報も提供を行い、商業的な利用も検討中だ。錦織氏は「データ放送を放送掲示板にしたい」と思いを語る。

このように、マールは「データ放送で何を提供するか」「市民が求める情報が何であるか」を熟知し、提供コンテンツのイメージを確立していたからこそ、今回のデータ放送が誕生したのだ。そして、そのマールが抱く地域愛を容易に具現化できたのは、ケーブル専用設計されているメディアキャストの「DataCaster suite」の存在は大きいと言えよう。

錦織氏は、「データ放送はテレビとネットの良いところを兼ね備えたサービス。提供イメージと創意工夫で、いろいろな形で住民の皆さんに貢献できます。これからは、コミちゃん、データ放送、ウェブで市民が求める情報全てを網羅していきたい。密度の濃い情報提供ができるのがケーブルテレビの強み」と力強く語る。

マールはデジタル放送時代のケーブルテレビの新たな強みを生み出し、地域の活性化、地域コミュニティの創生に貢献することになっていくだろう。

## (株)メディアキャスト

〒150-0044 東京都渋谷区円山町5-3 玉川ビル5F  
TEL.03-5728-4663  
<http://www.mcast.co.jp/>  
[info@mcast.co.jp](mailto:info@mcast.co.jp)

注)こちらは「B-maga」08年5月号に掲載されたものです。